

池の乾燥がユスリカ類に及ぼす影響について

近藤繁生*

愛知県長久手町の立石池（写真1）について1978年4月から毎月1回ライトトラップ（6 watt ブラックライト）で採集調査を行ったところ、1979年9月から1980年4月まで、堤防改修工事のため、池の水が落とされ池中央部の一部湿地帯を除き乾燥状態となった（写真2）。このため乾燥にともなうユスリカ群集の変化を観察することが出来た。

ユスリカ類は、1978年に比べ、1979年10月から翌年の1980年4月まで羽化が抑制された（図1）が、6月以降採集数は回復傾向を示した。ユスリカ群集の構成では、乾燥期は陸生、湿生の種を含むエリユスリカ亜科の構成比率が大きくなり、ユスリカ亜科、モンユスリカ亜科の構成比率は小さくなった。特に、モンユスリカ亜科への影響は大きく乾燥期にはまったく採集されなかった。モンユスリカの幼虫は、巣を造らず自由生活する種が多いため、乾燥の影響が大きかったと思われる。

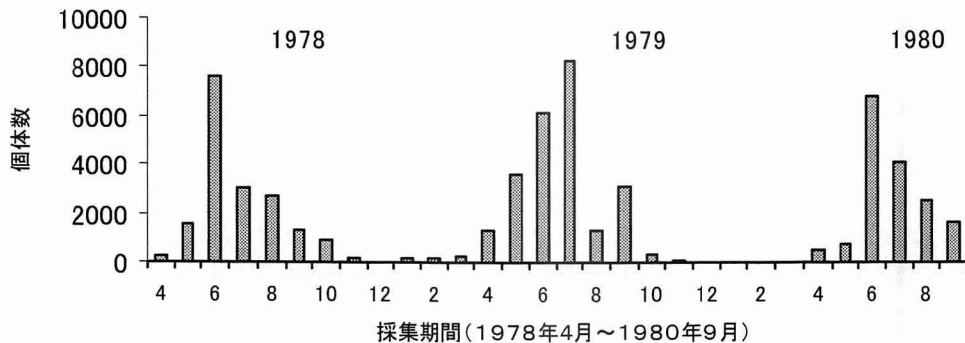


図1. ユスリカ採集個体数

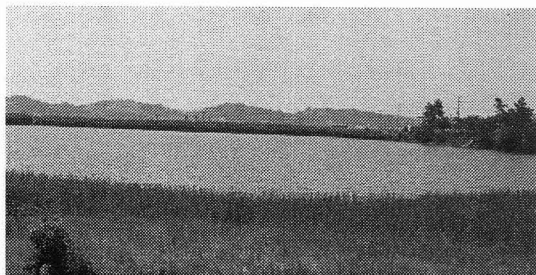


写真1. 立石池1978年



写真2. 立石池1979年

* 愛知医科大学 (〒480-1195 愛知県長久手町岩作雁又21)

ユスリカ亜科に属する主な種についての影響については、中、大型種オオユスリカ *Chironomus plumosus*、ウスモンユスリカ *Polypedilum nubeculosum*、フチグロユスリカ *Chironomus circumdatus*、クロユスリカ *Einfeldia dissidens*、ヤモンユスリカ *Polypedilum nubfer* には影響が大きく、採集個体数が激減した(図2)。また、ウスイロユスリカ *Chironomus kiiensis*、キョウトムモンユスリカ *Polypedilum kyotoense*、ホソオケバネユスリカ *Polypedilum tritum* への影響はほとんどなく乾燥前後で採集個体数の差はあまり見られなかった。また、乾燥後新たにミナミユスリカ *Nilodorum barbatitarsis* が採集された(図3)。乾燥の影響が見られた5種の内オオユスリカ、ウスモンユスリカ、クロユスリカは、深遠帯に生息する種であり乾燥の影響が顕著であったと思われる。他方、影響が見られなかった種はいずれも水田に生息している種であり、池周囲の水田地帯からあらためて入植したものと思われる。

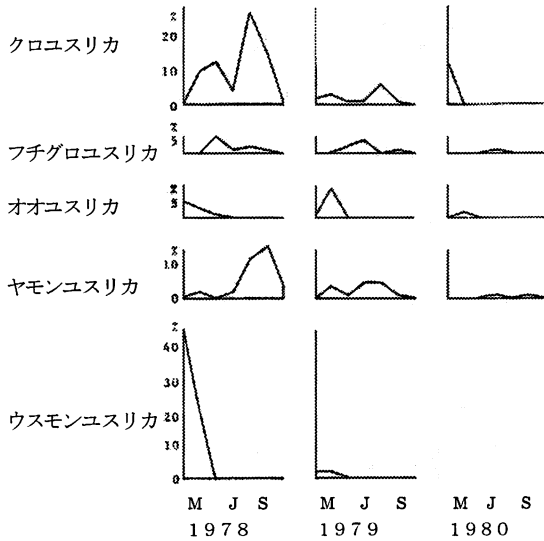


図2. 乾燥の影響が大きかった種

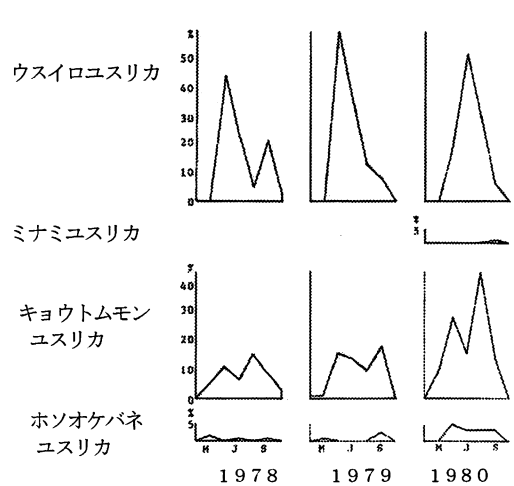


図3. 乾燥の影響が小さかった種

参考文献

近藤繁生・橋本 碩(1981):池乾燥にともなうユスリカ群集の変化について, 衛生動物, 32 (2): 167.
 Kondo, S. and Suzuki, T. (1982): Littoral survey of the Chironomidae in reservoirs of Nagoya City and suburbs, Jpn. J. Limnol. 43(4): 275-279.